

## 参院選 IR 候補地・大阪 カジノ争点化で攻防

参院選が始まり、国政レベルでは軍拡や改憲が話題にのぼるが、大阪では IR カジノ誘致の是非も問われる。毎日 21 日朝刊の表題記事を抜粋して紹介したい。

「カジノで大阪を壊すような政治を許していいのかが問われる選挙ではないでしょうか」共産の小池書記局長は 6 月上旬、大阪市内の街頭演説で声を張り上げた。小池氏がカジノ批判に力を入れるのには理由がある。建設予定地の夢洲は大阪湾を埋め立ててつくった人工島。「液状化」リスクや土壌汚染が判明、IR 運営事業者側の求めに応じて市が地盤対策費約 790 億円を負担するなど問題が噴出しているからだ。さらに後押しするのが「世論の声」だ。小池氏の演説の約 1 週間前、大阪 IR の賛否を問う住民投票を求める署名運動に 20 万筆を超える署名が集まったことが明らかになった。

IR 誘致は、大阪では「与党」の維新が進めてきた目玉政策の一つだ。しかし、地盤対策費の問題以外にも「事業者側優遇」とも受け取れる交渉過程に批判が出ている。基本協定には、新型コロナウイルス禍以前の観光需要が見込めなければ、運営事業者の判断で契約を解除できる規定が盛り込まれた。ギャンブル依存症や治安悪化への不安も根強い。このため、他の野党も IR 誘致を維新の「泣きどころ」として攻撃を強めている。

3 月に大阪入りした立憲民主の泉代表は「当初の計画とここまで違ってくるのかと疑問に感じざるを得ない」と指摘した。21 年に誘致を撤回した横浜市を例に挙げ「市長選で（反対派が当選し）撤回に至った。究極の目標はそこを目指していく」と踏み込み、来春の大阪府知事選や大阪市長選を見据える。れいわ新選組も山本代表が度々来阪し、街頭演説でカジノ批判を繰り返している。

これに対し、IR が実績の一つであるはずの維新の動きは対照的だ。松井代表と吉村副代表が 5 月から参院選に向けた遊説をスタートしたが、IR にはほとんど触れていない。松井氏は「既に法律ができている話で、選挙の争点にはならない」と述べるにとどめる。住民投票実施にも消極的だ。吉村氏も「既に事業者も決まり、（計画は）議会で承認されている。住民投票の必要はない」と否定的だ。条例案は否決される公算が大きい。複雑なのが自民党だ。党本部が政権とともに推し進めてきた政策だけに表向きは賛成だが、IR 整備計画に府議団が賛成したのに対し、市議団は反対と態度が割れた。反対する地方議員には、住民投票署名運動に水面下で協力する人もいたという。

IR カジノは維新の目玉政策のはずだが、次々と問題が出てきて、だんまりを決め込んでいるのだろうか。参院選は大阪 IR カジノ誘致の行方にも影響をおよぼす。

(2022 年 6 月 24 日)

